

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-172	高等学校	地理歴史科	地理 A	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
183 第一	地 A 310	高等学校 新版 地理 A 世界に目を向け、地域を学ぶ		

1. 編修の趣旨及び留意点

世界を広くグローバルにとらえながら、世界各地の諸地域および身近な地域で見られる生活・文化や諸課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、現代世界に対する地理的認識を深めるとともに、地理的技能および地理的な見方や考え方が習得できることをねらいとした。また、多様な自然環境のなかで起こる自然災害に対して、習得した地理的技能および地理的な見方や考え方を日常生活のなかで活用していくことにより、自らが主体的に地域のなかで防災や減災に取り組む態度が身につくよう留意した。

2. 編修の基本方針

本書は、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために、下記のような基本方針に基づいて編修した。

1. 各節の冒頭に「アプローチ」を設け、学習項目のねらいを端的に示した。事例学習では、「アプローチ」のなかに参照すべき図番号や写真番号を示し、生徒が主体的に学習に取り組み、考察できるよう配慮した。
2. 幅広い知識を身につけさせるため、本文はできるだけ具体例を示しながら丁寧に記述し、重要語句については側注を付して理解しやすくした。紙面を大きく用い、本文の理解を助ける図版・表・写真も豊富かつダイナミックに取り入れ、本文と図版・表・写真との対応関係をわかりやすくするため、該当する図版・表・写真番号を本文中に示した。また、各学習項目を相互に関連づけて理解し、学習効果をより高めるため、参照ページを丁寧に、かつ目立つように示している。
3. 「作業学習」に重点をおき、「ワーク」や、図版・写真などから考察・作業する「TRY」を設け、生徒の主体的な学習により地理的技能を習得できるようにした。その際、地図帳はもとよりGISや情報通信ネットワークの活用を意識し、課題を設定した。
4. 本文に関連した発展的な内容を丁寧に解説した「ファイル」と、写真を豊富に取り入れて視覚的な学習ができるようにした「特集」を設けた。また、学習事項に関連した重要な理解につながる内容や、話題性のある内容などを扱う5種類のコラムを設け、日本とのつながりや歴史的背景など幅広い教養を身につけさせるとともに、学習への興味・関心を喚起するようにした。
5. 事例学習の節末には「学習を深めよう」を設け、本文を踏まえたうえでより発展的な内容の課題を例示し、自ら考察していく力を身につけるとともに、持続可能な社会の形成に主体的に参画し、その発展に寄与する姿勢が身につけられるようにした。

3. 対照表

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1編 現代世界の特色と諸課題の地理的考察 1章 地球儀や地図でとらえる現代世界	地理学習に用いる地図は距離や面積などすべてを正確に示したものではないことを理解することで、所与の条件のなかで真理を求める態度を養えるよう配慮した(第1号)。	p.4~7
	日本の領土をめぐる問題を取り上げることによって、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにした(第5号)。	p.13
	現代社会は交通や通信などの発達によって利便性を	p.16~19

	増す反面、依然として課題があることを知り、その課題解決に向け主体的に考察する態度を養えるようにした(第1・3号)。	
第1編 現代世界の特色と諸課題の地理的考察 2章 世界の人々の生活を取りまく地理的環境	世界の多様な自然環境を形作ってきた地形や気候への理解を深めることで、現代社会に生きる上で必要な真理を求める態度を養えるよう配慮した(第1号)。 世界の多様な自然環境は、そこに暮らす人々の生活と密接に関連していることを学習することで、そこで育まれた生活・文化を尊重するとともに、持続可能な社会の実現について考察できるよう配慮した(第4・5号)。 世界では多様な民族がさまざまな宗教を信仰していること、また地域に応じた産業があることを取り上げ、世界の多様な生活・文化などの価値を尊重するとともに現代社会を構成する自分たちの役割について考察できるよう配慮した(第2号)。	p.24～47 p.26～49 p.50～61
第1編 現代世界の特色と諸課題の地理的考察 3章 世界の諸地域の生活・文化と環境	3章の事例学習では、世界の全地域を扱い、発展的な学習を促す課題を設定することで、主体的に学習する態度や幅広い知識・教養を身につけることができるよう配慮した(第1号)。 各事例地域と日本とのかかわりをまとめた本文記述やコラムを扱うことで、世界の諸地域を身近に感じるとともに日本社会のみならず国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう配慮した(第3・5号)。 世界の諸地域で営まれている生活は、その地域の自然環境や伝統・文化の影響を受けていることを理解することで、自然環境や伝統・文化の保全とともに持続可能な社会へ寄与する態度を養えるよう配慮した(第4号)。	p.62～135 p.72, 73, 80, 86, 93, 98, 105, 113, 119, 127, 131, 133 p.63, 68, 75, 76, 83, 89, 95, 97, 101, 102, 109, 115, 119, 123, 129
第1編 現代世界の特色と諸課題の地理的考察 4章 私たちが直面する地球的課題	事例学習では人口問題、食料問題、都市・居住問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体的な地球的課題を扱い、発展的な学習を促す課題を設定することで、主体的に学習する態度や幅広い知識と教養を身につけることができるよう配慮した(第1号)。 地球的課題に対し、それぞれの課題は相互に関連していること、また世界の諸地域の事例だけでなく日本の事例も学ぶことで、さまざまな視点から考察する姿勢や、地球的課題の解決に向け主体的に社会に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう配慮した(第3・4号)。 地球的課題の解決に向け、国際協力の必要性を取り上げることで、国際社会の持続可能な発展に寄与する態度を養うことができるよう配慮した(第5号)。	p.136～161 p.140, 141, 144, 145, 147, 148, 153 p.160～161
第2編 生活圏の諸課題の地理的考察 1章 日常生活と結びついた地図	身近に見られるさまざまな地図や国土地理院が発行する地形図について、具体的な事例とともに紹介することで、地図に関する幅広い知識と教養が身につくよう配慮した(第1号)。 日本で初めて精密な測量により地図を製作した伊能忠敬や、全国各地に残る重要伝統的建造物群保存地区などを取り上げることで、我が国の伝統・文化を尊重する態度を養えるよう配慮した(第5号)。 居住地域の課題解決のために住民自身による地図製作がおこなわれた事例を取り上げることにより、自らが主体的に地域の課題解決に寄与する態度を養うことが	p.162～173 p.164～167 p.168

	<p>できるよう配慮した(第3号)。</p> <p>明治時代以降整備されてきた国土地理院発行の2万5千分の1地形図が大きく改定されたことや、電子国土基本図の整備が進められていることを取り上げ、よりよい社会の形成に寄与する勤労の尊さについて考察できるよう配慮した(第2号)。</p>	p.170 ~ 173
<p>第2編 生活圏の諸課題の地理的考察</p> <p>2章 自然環境と防災</p>	<p>日本の自然環境と人々の生活は、自然災害と密接に関連しており、その対策には普段からの心構えと備えが必要なことを示し、自然とともに生きる態度を養えるよう留意した(第4号)。</p> <p>日本では、古くから霞堤や水害防備林などの自然災害対策がとられていたこと、また火山噴火に臨んできた先人の知恵を取り上げることで、自然を大切にするとともに、自然との共生のために培われてきた我が国の伝統と文化を尊重する態度を養えるよう配慮した(第4・5号)。</p> <p>持続可能な社会をめざして、個人が地域社会の一員としてできる災害への備えについて具体的に扱い、地域社会への参画に寄与する態度を養えるよう配慮した(第3号)。</p>	<p>p.176 ~ 191</p> <p>p.182 ~ 189</p> <p>p.189</p>
<p>第2編 生活圏の諸課題の地理的考察</p> <p>2章 生活圏の地理的な諸課題と地域調査</p>	<p>地域に対応した伝統的な自然災害対策が現在でも活用されていることを学ぶとともに、その礎と経験を活かし、地域社会への貢献について考察できるよう配慮した(第1・3号)。</p> <p>地域の自然環境に応じた産業の発展について取り上げることで、職業と自然環境に影響を受けた生活との関連に気づき、将来的な勤労に臨む態度を養えるよう留意した(第2号)。</p> <p>地域に応じた課題解決に向け、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れることで、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるよう配慮した(第3号)。</p>	<p>p.192 ~ 205</p> <p>p.201</p> <p>p.204 ~ 205</p>
<p>4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・作業学習を豊富に用意することにより主体的な学習活動が展開できるよう配慮した。 ・参照ページを示し、関連した学習内容を確認できるようにすることで、幅広い知識が身につくよう配慮した。 ・読みにくい漢字には積極的にルビを添え、一般的な教養も身につくよう配慮した。 		

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-172	高等学校	地理歴史科	地理 A	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
183 第一	地 A 310	高等学校 新版 地理 A 世界に目を向け、地域を学ぶ		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1. 世界の生活・文化を広く大観するとともに、世界の中の諸地域および身近な地域の生活・文化に着目した学習が展開できるよう配慮した。
 - ・第1編は世界を幅広く見る視点(グローバルスケール)で、第2編は身近な視点(ローカルスケール)で学習できるよう配慮した。また、それぞれが相互に関連していることがわかるよう、参照ページを丁寧に入れた。
 - ・世界的な視点から見た地形・気候などを扱うと同時に、地域的な規模で見られる地形・気候なども扱った。また、世界の全地域を扱うとともに、コラム「地域にズームイン」を設け、世界の諸地域のなかのさらに細かな地域に着目できるよう配慮した。
 - ・事例地域では日本と世界諸地域とのつながりを扱った小見出しやコラムを設け、日本と世界とのつながりを意識しながら学習できるよう配慮した。
2. 主体的・能動的に学習活動がおこなえるよう、作業学習を豊富に設定した。
 - ・それぞれの学習項目において、生徒が主体的かつ能動的に学習活動に取り組めるよう20の「ワーク」を設けた。
 - ・写真や図版に関連する地理的な発問を通して課題に取り組む「TRY」を豊富に設け、授業の流れのなかで能動的な学習ができるよう配慮した。その作業方法には、インターネットでの調査やGISなどの活用など、情報通信ネットワークの活用、地図帳の活用なども入れ、幅広い手法で学習できるよう留意した。
3. 写真や図版を豊富に掲載し、本文とのつながりを意識的に持たせ、効果的な学習ができるよう配慮した。
 - ・すべてのページに写真と図版を掲載し、ビジュアルな紙面を通して地理の基礎的な学習ができるよう配慮した。
 - ・本文の中に参照すべき図や写真の番号を示すことで、より効果的な学習活動をおこなえるよう配慮した。
 - ・写真の撮影年を示し、写真が撮影された背景まで想起できるよう配慮した。
4. 言語活動を充実させた。
 - ・20の「ワーク」を設け、書き込んだりグラフや地図などを読み取ったりする作業のほか、自分の考えをまとめたりグループで話し合ったりする作業内容を入れ、さまざまな作業学習を通して言語活動に主体的に取り組めるよう配慮した。
5. 地理の学習を通して地域社会に貢献する態度を養い、課題解決のための思考力や判断力などを育てるよう配慮した。
 - ・日本の自然環境と防災について学習するなかで、自然災害に対する日常からの備えや心構えの重要性を学び、地域社会の一員として地域の維持・発展に寄与するために必要なことを考察できるよう配慮した。
 - ・事例学習の最後に「学習を深めよう」を設定し、各地域で見られる課題や日本に生きる私たちが国際社会に対してできることを考察できるよう配慮した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1編 現代世界の特色と諸課題の地理的考察	(1) - ア		
1章 地球儀や地図でとらえる現代世界			
球面で世界を考えよう		p.4-5	1
世界地図の特徴を知ろう		p.6-9	1
世界観の広がりや地図		p.10-11	1
国家の領域と領土問題		p.12-13	1
国家をこえた結びつき		p.14-15	1
交通機関の発達と縮小する地球世界		p.16-17	1
情報・通信で一体化する世界		p.18-19	1
人・「もの」・資本で結びつく世界		p.20-23	1
2章 世界の人々の生活を取りまく地理的環境	(1) - イ		
さまざまな環境の中で暮らす人々		p.24-25	1
世界的視野から見た地形		p.26-27	2
さまざまな地形と生活		p.28-35	2
世界的視野から見た気候		p.36-39	2
世界の気候と生活		p.40-49	2
世界の民族・宗教と生活・文化		p.50-55	2
生活・文化を支える産業の地域性		p.56-61	2
3章 世界の諸地域の生活・文化と環境	(1) - イ		
東アジアの暮らしを学ぶ		p.62-73	3
東南アジアの暮らしを学ぶ		p.74-81	2
南アジアの暮らしを学ぶ		p.82-87	2
北アフリカ・西アジア・中央アジアの暮らしを学ぶ		p.88-93	2
中南アフリカの暮らしを学ぶ		p.94-99	2
ヨーロッパの暮らしを学ぶ		p.100-107	2
ロシアと周辺諸国の暮らしを学ぶ		p.108-113	2
北アメリカの暮らしを学ぶ		p.114-121	2
中央・南アメリカの暮らしを学ぶ		p.122-127	2
オセアニアの暮らしを学ぶ		p.128-135	2
4章 私たちが直面する地球的課題	(1) - ウ		
地球的課題の地理的な側面		p.136-137	1
人口問題 - 対照的な人口増大と少子・高齢化		p.138-141	1
食料問題 - 食料需給のアンバランス		p.142-145	1
都市・居住問題 - 健康で安全な生活環境		p.146-149	1

資源・エネルギー問題 - せまられる有効な利用		p.150-153	1
地球環境問題 - 21世紀は環境の時代		p.154-159	2
地球的課題への取り組みと国際協力		p.160-151	1
第2編 生活圏の諸課題の地理的考察			
1章 日常生活と結びついた地図			
地図をもって生活しよう	(2) - ア	p.162-163	1
身近な地図を読みこなそう		p.164-167	1
地図表現について考えよう		p.168-169	1
地形図を活用しよう		p.170-175	2
2章 自然環境と防災			
日本の自然と生活	(2) - イ	p.176-181	3
自然災害に備えた暮らし		p.182-191	3
3章 生活圏の地理的な諸課題と地域調査			
地域調査の方法	(2) - ウ	p.192-197	1
水とともに暮らすまち「白山市」を考える		p.198-205	2
		計	64